

水稻の生育状況（7月15日現在）と栽培上の留意点について

発信日：2025年7月16日

1 生育状況

7月15日現在の水稻の生育状況は、平年値(2015～2024年までの過去10年平均)と比べて、表1のとおりです。

表1 水稻の生育状況(7月15日現在)

品種	移植時期	草丈	茎数	葉色
はるみ	6月上旬	やや長い	同等	薄い
	6月中旬	長い	多い	同等
キヌヒカリ	6月上旬	長い	やや多い	薄い
	6月中旬	長い	やや多い	薄い
てんこもり*	6月上旬	長い	やや多い	やや薄い
	6月中旬	やや長い	多い	やや薄い

*2018～2024年までの過去7年平均との対比

2 栽培上の留意点

気象庁が7月10日に発表した1か月予報(7/12～8/11)では、気温は「高い」、降水量は「ほぼ平年並み」、日照時間は「ほぼ平年並み」見込みとなっています。

今後の栽培管理については、次の点に留意してください。

(1) 出穂期

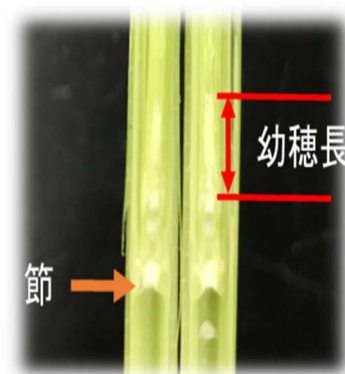
出穂期は、7月15日現在の生育状況と今後の気象予報からやや早いと予想されます。

(2) 追肥(穂肥)

追肥は、稲の生育調整と後期の生育維持のために行います。追肥時期は幼穂の長さから判断し(写真1)、施用量は水稻の品種や生育状況、天候や水田の特性により調整してください。標準的な追肥時期及び施用量は表2のとおりです。

表2 標準的な追肥時期と施用量

品種	時期	施用量(10a当たり)
はるみ	出穂期の15日前頃 (幼穂長15～20mm程度)	窒素成分2kg (例：化成肥料17-0-17で 約12kg)
キヌヒカリ	出穂期の20～15日前頃 (幼穂長2～20mm程度)	窒素成分2kg (例：化成肥料17-0-17で 約12kg)
てんこもり	出穂期の20日前頃 (幼穂長2mm程度)	窒素成分3kg (例：化成肥料17-0-17で 約18kg)



幼穂長の計測(写真1)

- ※ 基肥に緩効性肥料(てまいらず等)を使用した場合は、追肥は基本的に不要です。
- ※ 葉色が濃い、茎数が多い、草丈が長い場合は施用時期をやや遅らせます。
- ※ 多日照・高温傾向、乾田・漏水田などの場合は施肥量をやや多くします。

(3) 水管理

穂ばらみ期から登熟初期（出穂期 15 日前から出穂期 10 日後）までの期間は、稲が最も水を必要とする時期なので、水を切らないようにしてください。

出穂後に高温が続く場合は、かけ流しかん水又は間断かん水等を行い、高温障害による白未熟粒等の発生を回避しましょう。

(4) 水田周辺の雑草管理

「斑点米カメムシ類」（写真 2）は水田周辺の雑草に生息し、出穂期になると水田内に侵入し、籾を吸汁して斑点米を発生させ、落等の要因となります（写真 3）。本年は「アカスジカスミカメ」と「アカヒゲホソミドリカスミカメ」の予察灯への誘殺数が平年と比べて多くなっています。日頃から畦畔や水田周辺の除草管理を徹底しましょう。ただし、出穂期頃の除草は、水田に斑点米カメムシ類を追い込むため、畦畔雑草の除草は出穂 10 日前までに終わらせましょう。



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



アカスジ
カスミカメ



アカヒゲホソ
ミドリカスミカメ



斑点米（写真 3）

斑点米カメムシ類（写真 2）

(5) 「イネカメムシ」の発生に注意（写真 4）

県内各地で「イネカメムシ」の発生が確認されています。本虫は籾の基部を加害して不稔籾を発生させるため、他の斑点米カメムシ類と異なり、発生量が多いと大幅な減収となる可能性があります。また、畦畔雑草に飛来せず、直接水田内へ飛来する特徴があり、特に高温時は出穂期前に飛来し早期から繁殖する可能性があります。

そのため、「イネカメムシ」による不稔籾の発生を防ぐために、出穂期に防除を行ってください。また、発生地域が拡大傾向にあるので、昨年発生が見られなかった水田でも注意してください。



イネカメムシ
（写真 4）

※ この他の病虫害防除対策は、病虫害防除部の「令和 7 年度病虫害発生予察情報」を参照してください。

https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002/2025_4_01.html



※ また、薬剤防除を行うときは、病虫害防除部の「令和 7 年度防除情報（病虫害情報号外第 4 号）」を参考に、適切な農薬使用をお願いします。

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/119680/20250630_gogai.pdf



(6) ナガエツルノゲイトウ (写真5)

ナガエツルノゲイトウの発生地域が拡大しています。水田に疑わしい雑草が見られた時は、最寄りのJA または農業技術センターに連絡してください。

なお、ナガエツルノゲイトウの防除は農業技術センターホームページに掲載している世界最悪の侵略的植物「ナガエツルノゲイトウ」に警戒を！を参照してください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/88221/r6nagaeboujyo.pdf>



ナガエツルノゲイトウ (写真5)

(7) 熱中症対策

農作業中の熱中症に注意してください。熱中症の予防には日中の気温が高い時間帯を避けて作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等の工夫を行いましょう。のどが渇いていなくてもこまめに水分補給を行い、帽子の着用や通気性が良く速乾性のある服装を心がけましょう。

なお、農作業を行う際はなるべく2人以上で作業し、時間を決めて声をかけあったり、異常がないか確認しあうようにしましょう。単独で作業を行う場合には、何かあった際でもすぐに連絡ができるようにしましょう。

【参考】

表3 神奈川県農業技術センター(平塚市)における過去10年(2015~2024年)平均

作期	品種名	標準的な追肥時期	穂ばらみ期	出穂期
6月上旬植	はるみ	7月26日頃	7月26日~8月10日頃	8月10日
	キヌヒカリ	7月19日~24日頃	7月24日~8月8日頃	8月8日
	てんこもり*	7月25日頃	7月30日~8月14日頃	8月14日
6月中旬植	はるみ	7月31日頃	7月31日~8月15日頃	8月15日
	キヌヒカリ	7月25日~30日頃	7月30日~8月14日頃	8月14日
	てんこもり*	7月30日頃	8月4日~8月19日頃	8月19日

・穂ばらみ期は、出穂期約15日前~出穂期までの期間。水稻が最も水分を必要とする時期なので、湛水状態を保つようにする。

・*2018~2024年までの過去7年平均

問合せ先

神奈川県農業技術センター

普及指導部 作物加工課

TEL: 0463-58-0333 内線 381~384